

第23回理事会 議決

令和2年度

事業計画書

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

## 令和2年度事業計画

昨年は、比較的短い期間内に(8月～10月)大規模風水害(台風第15号、第19号及び第21号)が頻発しました。こうした事態は毎年繰り返される傾向にあります。当協会は、微力ながらこうした気象災害による犠牲者を減らすべく、事前防災や水循環系の健全化に資する雨水貯留浸透技術に関する調査研究、技術指針の整備、技術評価及び普及啓発等の事業に取り組んできました。また、海外に目を向けるならば、慢性的な洪水や水不足、急激な地下水枯渇といった雨に関係する課題が常態化しています。

“雨”は全ての生命の維持に必要な水の源であり、当協会が掲げる“都市の健全な水循環系の再生”は、持続可能な社会を実現するためのバックボーンとも言えます。

近年多様な主体が取り組みを始めた“SDGs”と“雨水の貯留浸透”との関わりを検討し、遅まきながら協会としてのSDGsに関するビジョン(RSD: Rainwater for Sustainable Development)を掲げ、雨水貯留浸透技術や製品が、経済・社会・環境の持続可能性にどのように貢献できるのか、また、どのように雨の持つ正の影響を強化し、負の影響を最小化できるかを、雨水協会の事業にSDGsの考え方(17のゴールと169のターゲット)を組み込んだビジネスモデル(アクションプラン)を会員と共に模索します。そして、こうした国内外の雨水産業をインキュベートする取組みを通じて、協会会員の入会を促進し、そのサービスの向上に努めます。



# 令和2年度 雨水協会事業計画

重点事項

新規内容等

	事業項目	具体的な活動内容等
1. 雨水貯留浸透技術に関する調査研究及び開発	1.1 (都市河川流域における) 水循環系健全化方策の検討	① モニタリングによる水循環改善効果の評価
		② 新たな製品、構造物及びシステムの開発と実用化
		③ 出来る限り自然を活かした効果的な方策 (緑地の持つ保水機能評価)
		④ 地下水の適切な管理及び利用
		⑤ 効率的な雨水(あまみず)活用の方策 (低コストな雨水活用システムの開発)
		⑥ 雨水の水質制御
	1.2 雨水貯留浸透施設の 効果評価の検討	① 開発地域の特性に見合った 適切な貯留浸透施設の計画設計
		② モニタリングによる効果評価 ・稲敷 プラ貯留槽 ・清須市 プラ貯留槽 ・タイ国 プラ貯留槽 他、必要に応じて
		③ 流域、都市、開発地域等での効果について、解析的な評価手法や簡便な評価手法を適用した検討
	1.3 全国における貯留浸透施設 普及状況の実態把握と普及 方策の検討	① アンケート、ヒアリング等による実態調査 (雨水・再生水利用施設データマップの更新)
		② 普及を促進するための仕組みの検討 (プラスチック・マスマンホール協会とのタイアップ)
	1.4 雨水貯留浸透技術のアジア モンスーン地域への展開検討	① ワークショップ、研修会、説明会などを 通じたネットワークの構築
② 日本のノウハウをアジアモンスーン地域へ適用 (JICA 事業、セミナー・展示会、ビジネスマッチング)		
2. 雨水貯留浸透技術を活用した 施設に関する技術的基準の作成	新たな製品・工法・システム等 (技術評価を取得した類似製品 及び工法など)に関する技術指針 ・マニュアル等の整備を行う。	共同研究会の運営
		プラ貯留普及部会
		① プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針改定 共同研究会 (計画・設計・施工・維持管理)
		② プラスチック製貯留構造体の 耐震解析技術共同研究会
		③ ポーラスコンクリート浸透施設 技術指針策定共同研究会
		④ 縦型浸透施設技術指針策定共同研究会
⑤ グリーンインフラ施設技術指針策定共同研究会		

## 令和2年度 雨水協会事業計画 (つづき)

3. 雨水貯留浸透技術評価認定	① 技術評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンシンプロック槽 (更新)</li> <li>・EGSM 工法 (追加更新)</li> <li>・ジオプール AE-2 工法</li> <li>・浸透フロアドレーン工法</li> </ul>
		技術評価認定技術の NETIS 申請支援
	② 適格認証制度 (SoRA) の改良	印西クリーンセンターをモデルケースとして改良
	③ 材料の品質確認試験の実施	プラスチック製貯留構造体
	④ 技術評価認定監査	制度の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施体制</li> <li>・要 綱</li> <li>・監査マニュアル</li> </ul>
4. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動	4.1 「水循環 貯留と浸透」の発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Vol. 117～Vol. 119 は、従来通りの技術情報誌とし、Vol. 120 は広告掲載ありの広報誌</li> <li>・英語版発行の検討</li> </ul>
	4.2 技術講習会・見学会の開催	11 月中旬開催
	4.3 雨水貯留浸透の普及・啓発、雨水貯留浸透技術の PR	・要請に応じて (過去：東久留米、船橋、印旛沼流域)
	4.4 雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの対応	問い合わせへの対応方法の見直し
	4.5 雨水貯留浸透技術に関する社外講演及び学会発表	・日本雨水資源化システム学会 (11 月、石川) 他、必要に応じて
	4.6 技術交流会の開催	
	4.7 雨水貯留浸透に関する技術者の養成	会員向け ARSIT Learning Salon の開催 (年 5～6 回)
5. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力提言等	① 公共機関への協力提言等	グリーンインフラプラットフォーム運営委員会への参画 (国土総合政策局環境政策課・水資源部)
	② 海外からの調査団の受け入れ、対応	JICA・タイ関連 ICHRM 関連
	③ 雨水ネットワーク運営への協力	必要に応じて支援・協力
	④ 日本建築学会の雨水建築普及活動への支援	小委員会への参画、シンポジウムへの参加など
	⑤ 財団法人都市緑化機構の「グリーンビジネスマネジメント研究会」への参画	毎月の会議 (雨水貯留浸透部会) への参加
	⑥ 空気調和・衛生工学会の雨水活用関連の活動に協力	必要に応じて委員会等へ参加
6. その他協会の目的を達成するために必要な事業		公的および民間助成等を活用した雨水貯留浸透施設の設定促進に関する調査研究を行う。(必要に応じて)

以上